

「会員のワークライフバランスと学術研鑽やキャリア形成、協会・士会活動参画に関する現況調査」結果概要報告

女性会員の参画促進事業担当理事

本会では、2015年第7回定例理事会（11月21日開催）で「女性会員の協会活動参画を促進するための提案」を承認し、提案に基づいた取り組みを進めてきました。既に提案から6年が経過しており、その取り組みの効果について把握すること、また、社会的にも性的役割や働き方に関する意識、研修や学会のオンライン化等により環境が変化していることから、女性会員の協会活動参画の現状と課題について改めて把握することを目的に、休会中の方も含めた全会員を対象とした調査を実施しました。調査を行うに当たっては、女性会員の協会活動参画だけに限定せず、その背景となるであろうワークライフバランスと学術研鑽やキャリア形成についても性別を問わず現状を尋ねました。本稿では、調査結果の概要をお伝えします。

調査概要

調査対象：日本作業療法士協会会員のうちメール登録のある会員（休会中の会員を含む）
54,290名

調査期間：2021年12月13日～28日

回答数：7,149件

回収率：13%

会員数に対する回答比率は女性の方がやや高いものの、男女で大きな差はなく、性別にかかわらず関心のある調査テーマであったことがわかります。今回は男女別で結果を示していますが、年代や居住地等の切り口で集計すれば、また違う示唆が得られるであろうことも考えられます。

1. 就業の状況とワークライフバランス

就業形態について、男性は97%が常勤であるの対

して、女性は82%に留まり、「非常勤」、「休職中」、「その他」（現在仕事に就いていないを含む）が約2割を占めました（図1）。何らかの役職に就いているのは、男性が44%であるのに対して女性は27%で、1.7倍の差があります（図2）。

「家事・家庭のマネジメント*」については、男性が年代であまり変化しないのに対して、女性は30代以降割合が大きくなり、70%以上の家事・家庭のマネジメントを担っていることがわかります（図3）。

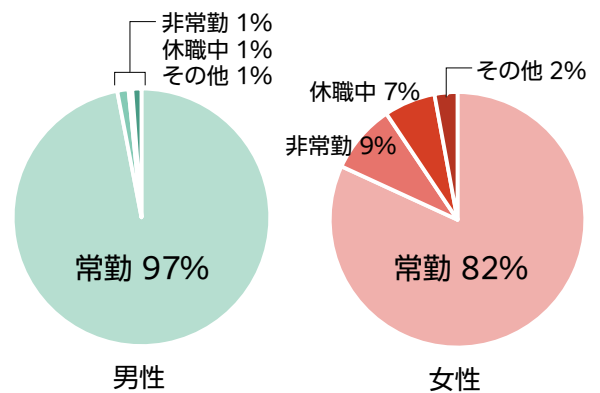


図1 就業形態

* 「食材や日用品の在庫の把握」、「食事の献立を考える」、「ごみを分類しまとめる」、「家族の予定を調整する」、「家計管理・運営、親や親族との付き合い」、「育児・子どもの教育」といった、調理・掃除・洗濯等のいわゆる「名前の付く家事」以外の、日々の家庭生活を滞りなく送るために必要な作業を指す。

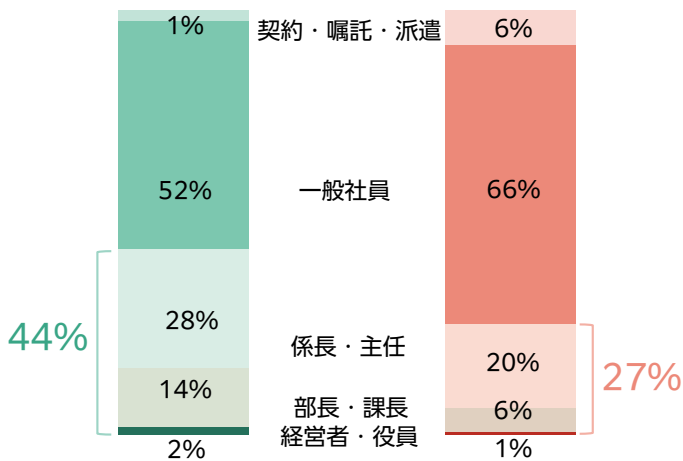


図2 勤務先での役職

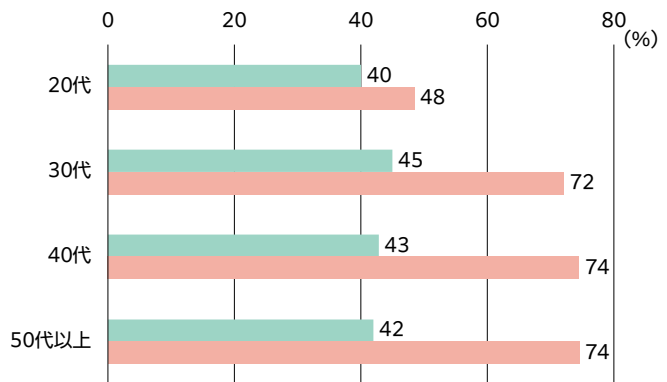


図3 家事・家庭のマネジメントを担っている程度

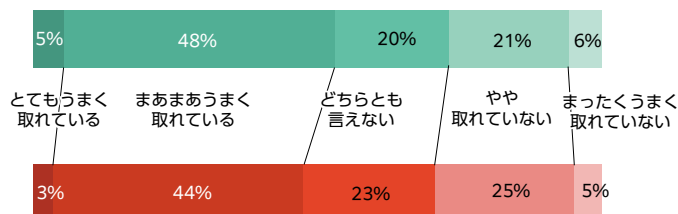


図4 ワークライフバランスが取れているかどうか

ワークライフバランスについて、「とてもうまく取れている」、「まあまあうまく取れている」と感じている割合は女性より男性の方が多く一方で、「やや取れていない」は女性の方が多く選択しています（図4）。「まったく取れていない」は男女に大きな差はありませんでした。

2. 学術研鑽

家事・育児・介護等、家庭で担っている役割を理由に研修・研究・進学を諦めたことがあるかどうかを尋ねたところ、「研修・学会参加」については女性の方が多く諦めた経験をもっていました（図5）。この結果で注目す

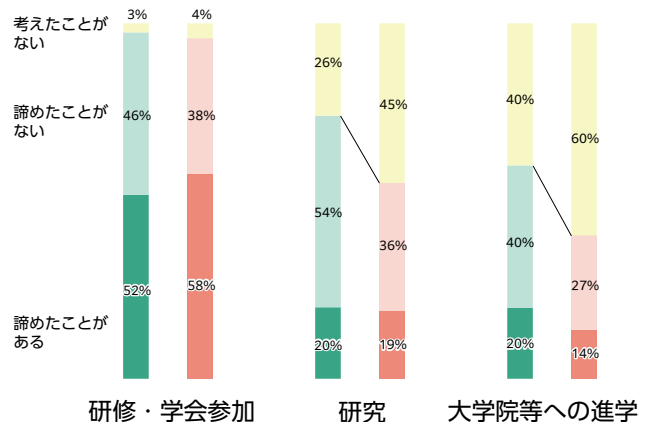


図5 家庭での役割を理由に研修や進学等を諦めたことがあるか

べきは、諦めたことの有無の差よりも、女性の多くが研究や大学院進学等を「そもそも考えたことがない」と答え、男女差も大きかったことです。「女性は研究も進学もするものではない」というジェンダー・ステレオタイプ（性別に基づく偏見）、性別による固定的役割分担に関する無意識の思い込み、いわゆる「アンコンシャス・バイアス（unconscious bias）」があることが窺えます。

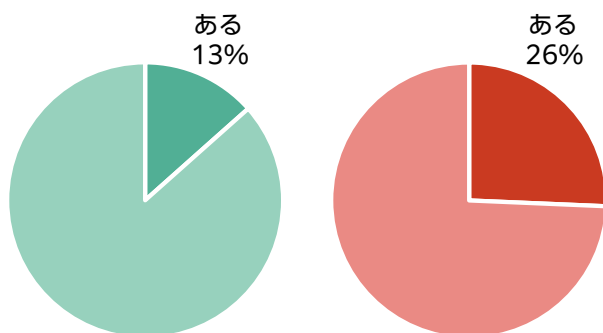


図6 生活の変化による退職・転職の有無

3. キャリア形成

結婚や出産、介護等、生活の変化に対して職場の体制が合わない等の理由で退職、転職をした経験を尋ねたところ、男性が13%であったのに対して女性は26%と、その差は2倍に達しました(図6)。理由としては男女ともに子育てが最多で、女性では結婚、出産、介護と続き、不妊治療を理由にした退職も一定数ありました。男性では介護、勤務時間、給与という理由が挙げられました。

職場の人事考課や昇進等に対する認識について、「特に男女差を感じない」は男性が44%であるのに対し、女性は35%でした。男女による「差を感じる」、「どちらかと言えば感じる」は男性20%に対し、女性は28%と、女性の方が差を感じていました(図7)。

4. 協会・士会活動参画

協会活動に携わる会員は延べ771名(2021年度)で、会員の約1%に当たります。今回の調査では士会も含め男性で34%、女性で12%が理事・役員等で携わっているとの回答であり、協会・士会活動に携わる方に多く回答いただいたことがわかります(図8)。協会の部員・委員等に女性が占める割合は26%で男女比はおよそ3:1ですが、今回の調査でも同様の結果となり、男性の方が

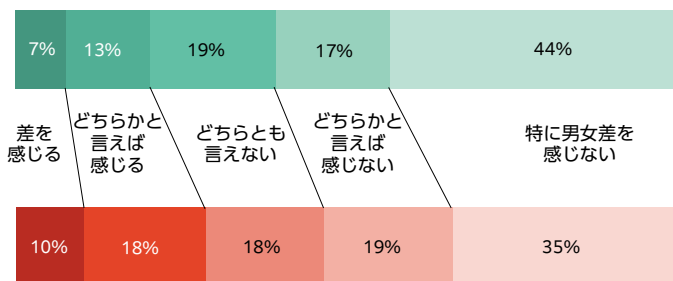


図7 職場の人事考課や昇進等に対する認識

より多く協会・士会活動に携わっていることが示されました。

今後の協会・士会活動への参画の意向については、男性の方がより多く「いつかは参画したい」と回答していました(図9)。一方、「今はわからない」という回答については、女性の割合が高いことも注目できます。条件さえ整えば活動参画の可能性はある、とも言えるかもしれません。

協会・士会活動への参画のためには「自分の生活と仕事の状況に合わせて参画できる、さまざまな頻度や方法」が男女ともに最も多く選択されました(図10)。自由記載欄に寄せられたコメントは、計307件あり、その次の設問「自身のワークライフバランスと学術研鑽やキャリア形成に関する考え」の自由記載欄には、協会のあり方への意見も含めた、女性826件、男性443件の多岐にわたるコメントが書かれていました。

なお、調査には女性会員の参画に限らず、設問に関連し作業療法士の労働環境や協会運営等に関しても多くの意見が寄せられ、非常に貴重な会員の生の声を集める機会となりました。いただいたご意見は理事全員で目を通し、今後の会務運営の参考とさせていただきます。

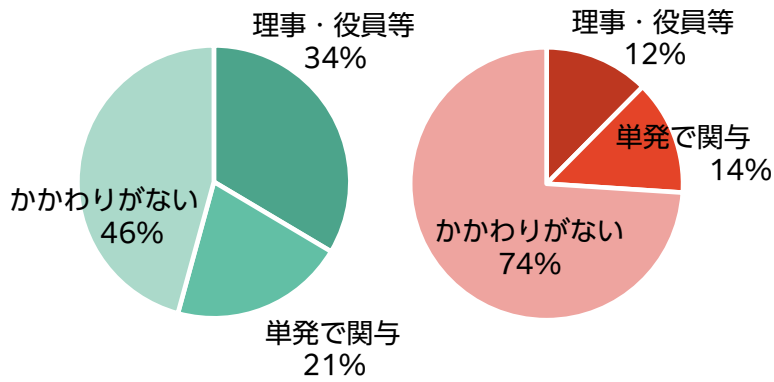


図8 協会・士会活動への参画

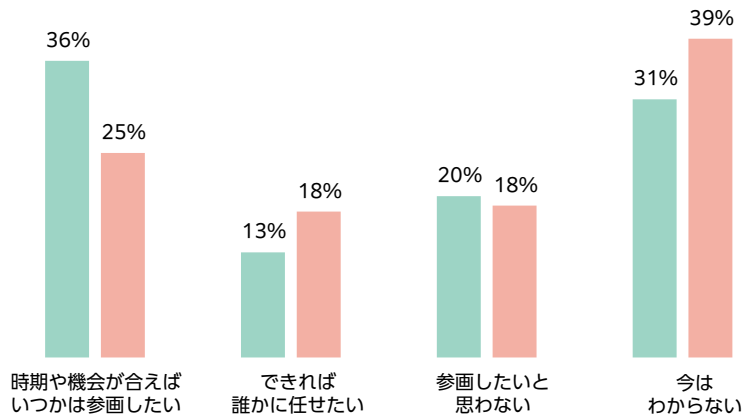


図9 協会・士会活動への参画の意向

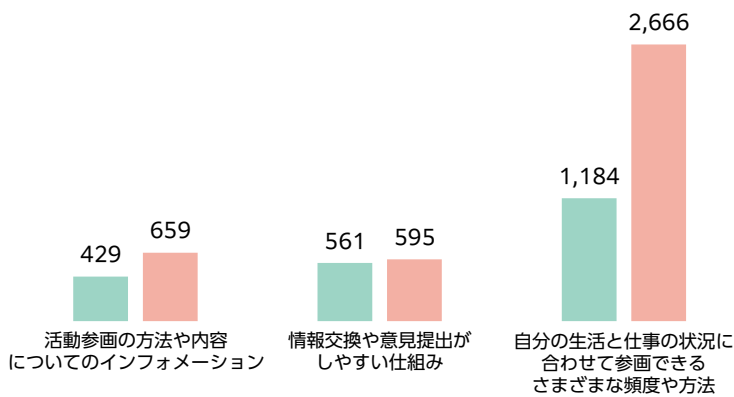


図10 協会・士会活動の参画のためにあるとよいもの